

シンポジウム

『医療アンサンブルの中での臨床検査技師が受け持つパートは？』

超高齢社会に代表される2025年問題を迎えて、今、医療のあり方が大きく変わろうとしている。

生産年齢人口を中心とした人口減少に伴い、医療ニーズに変化が現れてきており、特に認知症高齢者の増加は大きな問題となっている。

そのような状況において、医療保険給付は総額54兆円が予測されており、財源的な問題を生じている。そのため、国策として医療制度の見直しが行われており、病床数の削減など、医療現場において大きな波が押し寄せようとしている。そこで、そのような大きな変革の向かえるなか、我々臨床検査技師は医療スタッフの一員としてどのように活躍していけば良いのかを、新たな取り組みを行っている施設よりご報告いただき、討論していきたい。

司会：山本 幸治（済生会松阪総合病院）

長原 三輝雄（金沢大学附属病院）

1. 「病棟検査技師について」

直田 健太郎（聖隷浜松病院）

2. 「検体採取業務等への業務拡大について」

中嶋 美樹子（公立南砺中央病院）

3. 「臨床検査技師が関わる救命救急センター業務」

神谷 光宏（豊橋市民病院）

4. 「腎臓病センター専任臨床検査技師」

佐藤 英麿（医療法人社団 慈朋会 澤田病院）

5. 「認知症関連 ～認知症検査と新オレンジプラン～」

加藤 正彦（富田地区地域医療研究会）

6. 「内視鏡部門における臨床検査技師の可能性」

角森 正信（島根県立中央病院）